# 第 54 回　愛媛形成外科研修会

# 抄 録 集

日　時　　令和７年６月 21 日（土）17 時 00 分～

場　所　　えひめ共催会館　４階　豊明

愛媛県松山市三番町５丁目 13-1

TEL：089-945-6311（代）


当番世話人

愛媛大学医学部附属病院　形成外科　　森 秀樹

# 第 54 回 愛媛形成外科研修会

## 研修会について

1. 参加受付は、16 時 30 分より会場前【4階　豊明】で行います。
2. 参加費として 2,000 円を受付にて申し受けます。
3. 一般演題での発表時間は、一題あたり 5 分と 3 分、質疑応答は 3 分を予定しています。
4. PC は Windows、PowerPoint を使用しての発表になります。なお、OS、バージョン等の影響で、調整等が必要になる場合があります（当日は、USBメモリーあるいはPC本体をお持ちください）。
5. 駐車場は、お越しいただいた際に空きがございましたらお停めいただけます。

## えひめ共済会館への交通アクセス

### えひめ共済会館

愛媛県松山市三番町5丁目13-1
電話番号：089-945-6311
https://kyosai-ehime.or.jp/kaikan/
※詳細なアクセスマップや周辺地図は、公式サイトのアクセスページをご覧ください

◆JR 松山駅から
路面電車（2番環状線または5番 JR 松山駅前線）で約7分、「南堀端」下車、徒歩約3分
◆松山市駅から
徒歩で5分

## えひめ共済会館 フロアガイド

| | | |
|---|---|---|
| 5 階 | 会議室・宴会場【真珠・椿・桜】 | 真珠にて世話人会 |
| 4 階 | 会議室・宴会場【豊明（寿・雅）・末広】 | 豊明にて研修会 |
| 1 階 | フロント、レストラン「旬彩 伍縁」 | |

# 会　歴

| 会 期 | 世 話 人 | 会 場 | 日 時 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|
| 第 1 回 | 河村 進<br>（四国がんセンター 形成外科） | 松山成人病センター | 平成 10 年 7 月 4 日 | 15 名 |
| 第 2 回 | 小林 一夫<br>（愛媛県立中央病院 形成外科） | 愛媛県医師会研修所 | 平成 10 年 12 月 5 日 | 17 名 |
| 第 3 回 | 中岡 啓喜<br>（愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班） | 松山成人病センター | 平成 11 年 6 月 19 日 | 20 名 |
| 第 4 回 | 河村 進<br>（四国がんセンター 形成外科） | 四国がんセンター<br>会議室 | 平成 11 年 11 月 27 日 | 19 名 |
| 第 5 回 | 小林 一夫<br>（愛媛県立中央病院 形成外科） | 四国がんセンター<br>会議室 | 平成 12 年 6 月 24 日 | 17 名 |
| 第 6 回 | 中岡 啓喜<br>（愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班） | 四国がんセンター<br>会議室 | 平成 12 年 12 月 9 日 | 20 名 |
| 第 7 回 | 河村 進<br>（四国がんセンター 形成外科） | 四国がんセンター<br>会議室 | 平成 13 年 6 月 23 日 | 23 名 |
| 第 8 回 | 小林 一夫<br>（愛媛県立中央病院 形成外科） | 四国がんセンター<br>会議室 | 平成 13 年 12 月 8 日 | 23 名 |
| 第 9 回 | 中岡 啓喜<br>（愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班） | 四国がんセンター<br>会議室 | 平成 14 年 6 月 8 日 | 27 名 |
| 第 10 回 | 河村 進<br>（四国がんセンター 形成外科） | 四国がんセンター<br>会議室 | 平成 14 年 12 月 14 日 | 27 名 |
| 第 11 回 | 小林 一夫<br>（愛媛県立中央病院 形成外科） | 四国がんセンター<br>会議室 | 平成 15 年 6 月 28 日 | 25 名 |
| 第 12 回 | 中岡 啓喜<br>（愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班） | 四国がんセンター<br>会議室 | 平成 15 年 12 月 13 日 | 25 名 |
| 第 13 回 | 河村 進<br>（四国がんセンター 形成外科） | 四国がんセンター<br>会議室 | 平成 16 年 6 月 26 日 | 26 名 |
| 第 14 回 | 小林 一夫<br>（愛媛県立中央病院 形成外科） | 四国がんセンター<br>会議室 | 平成 16 年 12 月 4 日 | 29 名 |
| 第 15 回 | 中岡 啓喜<br>（愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班） | 四国がんセンター<br>会議室 | 平成 17 年 6 月 18 日 | 31 名 |
| 第 16 回 | 河村 進<br>（四国がんセンター 形成外科） | 四国がんセンター<br>会議室 | 平成 17 年 12 月 10 日 | 35 名 |
| 第 17 回 | 小林 一夫<br>（愛媛県立中央病院 形成外科） | 四国がんセンター<br>研修室 | 平成 18 年 6 月 24 日 | 31 名 |
| 第 18 回 | 中岡 啓喜<br>（愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班） | 四国がんセンター<br>研修室 | 平成 18 年 12 月 9 日 | 26 名 |
| 第 19 回 | 河村 進<br>（四国がんセンター 形成外科） | 四国がんセンター<br>研修室 | 平成 19 年 6 月 16 日 | 37 名 |
| 第 20 回 | 小林 一夫<br>（愛媛県立中央病院 形成外科） | 四国がんセンター<br>研修室 | 平成 19 年 12 月 15 日 | 30 名 |

| 会 期 | 世 話 人 | 会 場 | 日 時 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|
| 第 21 回 | 中岡 啓喜<br>（愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班） | 四国がんセンター<br>研修室 | 平成 20 年 6 月 14 日 | 30 名 |
| 第 22 回 | 庄野 佳孝<br>（松山赤十字病院 形成外科） | 四国がんセンター<br>研修室 | 平成 20 年 12 月 6 日 | 30 名 |
| 第 23 回 | 河村 進<br>（四国がんセンター　形成外科） | 四国がんセンター<br>研修室 | 平成 21 年 6 月 27 日 | 32 名 |
| 第 24 回 | 小林 一夫<br>（愛媛県立中央病院　形成外科） | 四国がんセンター<br>研修室 | 平成 21 年 12 月 12 日 | 28 名 |
| 第 25 回 | 中岡 啓喜<br>（愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班） | 四国がんセンター<br>研修室 | 平成 22 年 6 月 19 日 | 34 名 |
| 第 26 回 | 田中 伸二<br>（石川病院　形成外科） | 四国がんセンター<br>研修室 | 平成 22 年 12 月 11 日 | 30 名 |
| 第 27 回 | 河村 進<br>（四国がんセンター　形成外科） | 四国がんセンター<br>研修室 | 平成 23 年 6 月 18 日 | 31 名 |
| 第 28 回 | 小林 一夫<br>（愛媛県立中央病院　形成外科） | 四国がんセンター<br>研修室 | 平成 23 年 11 月 26 日 | 25 名 |
| 第 29 回 | 庄野 佳孝<br>（松山赤十字病院　形成外科） | えひめ共済会館<br>4 階　末広 | 平成 24 年 6 月 23 日 | 34 名 |
| 第 30 回 | 中岡 啓喜<br>（愛媛大学医学部附属病院　形成外科） | 四国がんセンター<br>新棟 3 階研修室 | 平成 24 年 12 月 1 日 | 26 名 |
| 第 31 回 | 田中 伸二<br>（HITO 病院　形成外科） | 四国がんセンター<br>新棟 3 階研修室 | 平成 25 年 6 月 22 日 | 36 名 |
| 第 32 回 | 河村 進<br>（四国がんセンター　形成外科） | にぎたつ会館<br>2 階　楓の間 | 平成 25 年 11 月 30 日 | 30 名 |
| 第 33 回 | 安井 史明<br>（住友別子病院　形成外科） | 四国がんセンター<br>新棟 3 階研修室 | 平成 26 年 6 月 21 日 | 32 名 |
| 第 34 回 | 小林 一夫<br>（愛媛県立中央病院　形成外科） | 愛媛県立中央病院<br>新館ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ会議室 | 平成 26 年 11 月 29 日 | 32 名 |
| 第 35 回 | 中岡 啓喜<br>（愛媛大学医学部附属病院　形成外科） | 四国がんセンター<br>新棟 3 階研修室 | 平成 27 年 6 月 27 日 | 36 名 |
| 第 36 回 | 田中 伸二<br>（HITO 病院　形成外科） | HITO 病院<br>3 階　大会議室 | 平成 27 年 11 月 21 日 | 27 名 |
| 第 37 回 | 手塚 敬<br>（松山市民病院　形成外科） | 松山市民病院<br>2 階多目的ホール | 平成 28 年 6 月 11 日 | 32 名 |
| 第 38 回 | 河村 進<br>（四国がんセンター　形成外科） | 四国がんセンター<br>新棟　3 階研修室 | 平成 28 年 12 月 10 日 | 30 名 |
| 第 39 回 | 小林 一夫<br>（愛媛県立中央病院　形成外科） | 愛媛県立中央病院<br>3 階中会議室①② | 平成 29 年 6 月 24 日 | 36 名 |
| 第 40 回 | 中岡 啓喜<br>（愛媛大学医学部附属病院　形成外科） | 四国がんセンター<br>本館　3 階研修室 | 平成 29 年 12 月 9 日 | 32 名 |

| 会 期 | 世 話 人 | 会 場 | 日 時 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|
| 第 41 回 | 庄野 佳孝<br>（松山赤十字病院 形成外科） | 松山赤十字病院<br>4 階多目的ホール | 平成 30 年 6 月 9 日 | 27 名 |
| 第 42 回 | 田中 伸二<br>（HITO 病院 形成外科） | HITO 病院<br>3 階 大会議室 | 平成 30 年 12 月 1 日 | 28 名 |
| 第 43 回 | 河村 進<br>（四国がんセンター 形成外科） | 四国がんセンター<br>新棟 3 階研修室 | 令和元年 6 月 22 日 | 31 名 |
| 第 44 回 | 中川 浩志<br>（愛媛県立中央病院 形成外科） | 愛媛県立中央病院<br>管理棟 1 階 講堂 | 令和元年 12 月 7 日 | 37 名 |
| 第 45 回 | 安井 史明<br>（住友別子病院 形成外科） | オンライン開催 | 令和 2 年 12 月 12 日 | 28 名 |
| 第 46 回 | 中岡 啓喜<br>（愛媛大学医学部附属病院 形成外科） | オンライン開催 | 令和 3 年 6 月 12 日 | 35 名 |
| 第 47 回 | 手塚 敬<br>（松山市民病院 形成外科） | 松山市民病院<br>2 階 多目的ホール | 令和 3 年 12 月 4 日 | 23 名 |
| 第 48 回 | 庄野 佳孝<br>（松山赤十字病院 形成外科） | 松山赤十字病院<br>4 階多目的ホール | 令和 4 年 6 月 4 日 | 32 名 |
| 第 49 回 | 田中 伸二<br>（HITO 病院 形成外科） | 四国がんセンター<br>新棟 3 階研修室 | 令和 4 年 11 月 19 日 | 31 名 |
| 第 50 回 | 山下 昌宏<br>（四国がんセンター 形成外科） | ANA クラウンプラザ<br>ホテル松山 | 令和 5 年 6 月 10 日 | 30 名 |
| 第 51 回 | 中川 浩志<br>（愛媛県立中央病院 形成外科） | 愛媛県立中央病院<br>管理棟 1 階 講堂 | 令和 5 年 11 月 25 日 | 24 名 |
| 第 52 回 | 野澤 竜太<br>（南松山病院 形成外科） | 南松山病院<br>3 階 研修室 | 令和 6 年 6 月 22 日 | 24 名 |
| 第 53 回 | 三宅 啓介<br>（済生会松山病院 形成外科） | 済生会松山病院<br>救急棟 3 階大会議室 | 令和 6 年 11 月 16 日 | 19 名 |

# プ　ロ　グ　ラ　ム

## Section Ⅰ（ 17:00～17:40 ）　座長:松山市民病院 形成外科　川野 貴大 先生

1. 頬骨骨折整復における改善度の調査 （ 5分 ）
愛媛県立中央病院 形成外科　西 建剛 他

2. きずあと治療における当院の取り組み（ 5分 ）
きずときずあとのクリニック　木村 千寿 他

3. 咽頭皮膚瘻にたいしてのNPWTの使用経験 （ 5分 ）
四国がんセンター 形成外科　山下 昌宏

4. 当科におけるばね指の診療経験 （ 5分 ）
HITO 病院 形成外科美容外科　山中 健生 他

5. 臀部～会陰部巨大腫瘤を伴うNFIに対して人工肛門造設に至った1例 （ 5分 ）
愛媛大学医学部附属病院 形成外科　泉本 真美子 他

休憩 10 分

## Section Ⅱ（ 17:50～18:30 ）　座長:愛媛県立中央病院 形成外科　岡田 將誉 先生

6. 左下腿に広範な皮膚壊死をきたしたびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の1例 （ 5分 ）
市立宇和島病院 形成外科　浅野 遥奈 他

7. タングステン素材の指輪切断経験 （ 5分 ）
済生会松山病院 形成外科　三宅 啓介

8. 橈骨動脈穿通枝皮弁で再建した環指指尖部切断の1例 （ 5分 ）
愛媛大学医学部附属病院 形成外科　村上 達郎 他

9. 深頚部膿瘍後の瘢痕拘縮。治療方針は？（ 3分 ）
松山市民病院 形成外科　手塚 敬 他

10. 臀部に発生した巨大皮下皮様嚢腫の1例 （ 3分 ）
松山赤十字病院 形成外科　井上 拓人 他

総会 （ 18:30～18:45 ）

共催： 松山形成外科医会　愛媛形成外科医会

## Section Ⅰ（ 17:00～17:40 ）　座長:松山市民病院 形成外科　川野 貴大 先生

### 1. 頬骨骨折整復における改善度の調査

愛媛県立中央病院 形成外科
〇西 建剛、中川 浩志、石野 憲太郎、岡田 將誉
（ 5分 ）

頬骨骨折整復では骨形態を正しい位置へ戻し、良好な顔貌を獲得することが重要である。今回、我々は術前後のCTを後方視的に解析した。水平断CT画像の鼻尖から後鼻棘もしくは篩骨水平板へ引いた線をX軸、これと直行し骨折部の内側を通るように引いた線をY軸とし、骨折部外側点AとX軸までの距離をa、Y軸でのAの対称点B、X軸までの距離をbとし、|b-a|を改善度と設定した。18例の平均は3.83mmで諸家の報告と比して遜色はなかった。

### 2. きずあと治療における当院の取り組み

きずときずあとのクリニック
〇木村 千寿、野村 美佐子、村松 英之
（ 5分 ）

2024年4月より東京都に引っ越し、江東区豊洲にある、きずときずあとのクリニックに勤務している。当院は「世界中のけが、やけど、きずあと、自傷で悩む人に勇気と安心、笑顔を届ける」を理念として掲げており、全国からきずあとに悩む患者さんが来院する。リストカットに代表される自傷瘢痕の治療も積極的に行っている。当院におけるきずあと治療について紹介する。

3. 咽頭皮膚瘻にたいしてのNPWTの使用経験

四国がんセンター 形成外科

〇山下 昌宏

（ 5分 ）

症例は65歳男性。咽頭皮膚瘻閉鎖術後の創部離開にて当科紹介受診された。初診時頸部に2×1㎝大の咽頭皮膚瘻孔が認められた。瘻孔の閉鎖としてNPWTを用いた。加療初期は、フィルム下の唾液の貯留などで頻回の交換を要し、やや難渋した。全体として創部の縮小を得られており現在加療中である。若干の知見を加えて報告する。

4. 当科におけるばね指の診療経験

HITO病院 形成外科美容外科

〇山中 健生、米田 武史、中西 秀樹

（ 5分 ）

当科では2024年6月よりばね指に対する診療を開始し、2025年5月までの1年間に12例の手術（腱鞘切開術）を行った。近年、形成外科でも手外科領域の診療が拡大しつつあるが、外傷が中心であり、炎症性疾患であるばね指への対応は少ないと考えられる。現状を報告する。

5. 臀部～会陰部巨大腫瘤を伴う NF1 に対して人工肛門造設に至った1例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

〇泉本 真美子、戸澤 麻美、村上 達郎、森 秀樹

（ 5分 ）

73歳男性。31歳当科初診時より臀部に腫瘤を認めていた。36～62歳にかけて4度の腫瘤の減量を施行したが、徐々に増大した。その間も排便困難な状態が持続していたが、本年自力で排便不可能な状態となり人工肛門造設にいたった。NF1患者に対する人工肛門造設はまれであると思われるため報告する。

休憩 10 分

## Section Ⅱ（ 17:50〜18:30 ）　座長：愛媛県立中央病院 形成外科　岡田 將誉 先生

### 6. 左下腿に広範な皮膚壊死をきたしたびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の1例

[1]市立宇和島病院 形成外科、[2]市立宇和島病院 皮膚科、[3]愛媛大学医学部附属病院 第一内科
○浅野 遥奈[1]、眞田 紗代子[1]、岩田 麻里[2]、岡 浩司[3]、藥師寺 直喜[2]

（ 5分 ）

85歳男性。発熱と左下腿の広範囲皮膚壊死で当院整形外科を受診し、左鼠経リンパ節腫大の精査を含め当科紹介となった。下肢温存の希望が強く、当科で入院加療の方針となった。CTで左半身に複数のリンパ節腫大を認め、可溶性IL-2レセプターが高値であったことから悪性リンパ腫を疑った。リンパ節、皮膚の生検を行い、びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫（DLBCL）の診断に至った。若干の文献的考察を含めて報告する。

### 7. タングステン素材の指輪切断経験

済生会松山病院 形成外科
○三宅 啓介

（ 5分 ）

症例は40歳女性。統合失調症で他院入院中に、手指が腫脹して指輪が陥入した。精神症状のために紹介が遅くなり、当院受診時には潰瘍形成していた。指輪は3本あり、2本は当院リングカッターで切断したが、1本は切断することができなかった。結局ダイヤモンドバーで切断した。指輪裏面にはタングステンとの記載があった。高硬度の指輪について知識を共有したい。

8. 橈骨動脈穿通枝皮弁で再建した環指指尖部切断の1例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科
〇村上 達郎、戸澤 麻美、泉本 真美子、森 秀樹

（ 5分 ）

39歳男性。仕事中にローラーに巻き込まれて受傷した右環指指尖部掌側の軟部組織メインの挫滅の強い斜切断に対し、橈骨動脈穿通枝皮弁を用いて再建した。同皮弁は質感や色調に優れ、知覚回復も良好であり、指尖部再建に有用と考えられる。若干の文献的考察を加えて報告する。

9. 深頚部膿瘍後の瘢痕拘縮。治療方針は？

松山市民病院 形成外科
〇手塚 敬、川野 貴大、上村 由美子

（ 3分 ）

62歳男性。深頚部膿瘍の診断で耳鼻咽喉科にて切開術をうけ、大量に排膿し、大きな組織欠損の状態となった。NWPT中に当科が介入開始、清浄化すれば、植皮、PAT移植などを考えていたが、排膿が続くうちに潰瘍の収縮が進み、強い拘縮となった。拘縮解除ができるとしたら何で被覆するか、ご意見を伺いたく提示します。

10. 臀部に発生した巨大皮下皮様嚢腫の1例

松山赤十字病院 形成外科
○井上 拓人、庄野 佳孝

（ 3分 ）

皮下皮様養腫は、胎生期に外胚葉成分が迷入して発生するといわれており、先天性の腫瘍であるため幼少期に気づかれて加療されることが多い。今回我々は、臀部に生じた成人の巨大な皮下皮様腫の1例を経験したので、文献的考察を加えて報告する。

総 会（18:30～18:45）

1. 次回研修会の日程

2. その他